



1. 自己評価

I 評価結果

- ・『笑顔があり元気な学校』づくりに向けて、教職員・生徒・保護者で目標を確認して取組を進めていくことができている。
- ・生徒指導上の問題が日常的にあるが、常に素早い対応ができ、保護者とも協力体制ができている。方針としても根気よくねばり強い生徒指導をめざしている。各関係機関とも素早く・連携した取り組みができている。
- ・教職員の多忙状況の中においても生徒とかかわる時間を大切にしている。
- ・特別支援コーディネーターを中心として、教育相談体制（ケース会議等）や不登校支援対策（鶴山塾等との連携）が整っている。
- ・自転車通学者、特に下校時のマナーについて計画的・継続的な指導を重ねているが、マナーが悪く迷惑をおかけしていることもある。
- ・読書活動の評価が高く読書の質・量が多い。
- ・各教職員の授業における指導方法の工夫改善については、県内・県外の研究会・研修会に積極的に出かけている。校内研修においても、外部の講師（岡山大学の高旗浩志准教授）を招いて、協同的な学び・授業展開を進めており、今年2年目に入り少し進んだように感じている。
- ・道徳は、道徳推進教師を中心に年間計画等の整備ができ、授業時間だけでなく、教材も工夫して取り組みを進める方向になってきている。
- ・生徒の家庭学習は全体的に十分とはいえない。二極化している。家庭学習習慣不足生徒の率がやや多い。小中連携やPTAのなかで家庭学習の習慣づけの取組を進め出している。
- ・学校の環境づくり、花壇・鉢や掲示物の工夫を進めてきた。学校全体が以前に比べきれいになった。
- ・保・幼・小・中・高の連携は徐々にできつつある。特に津山東中学校区の小中連携は、分掌ごとの連携や授業連携などで基盤ができてきた。
- ・PTA活動が学区連携で活性化してきている。小中だけでなく保幼との連携も進んでいる。
- ・家庭・地域・保護者との連携協力は比較的良いが、関わろうとしない家庭に課題を残す。
- ・開かれた学校づくり等、学校の情報発信力は向上している。

II 分析・改善方策

- ・校務分掌のさらなるスリム化と整理、教職員の健康管理の面からも長時間勤務の解消を図る。
- ・授業改善について、今年度の継続として、外部の講師（岡山大学の高旗浩志准教授）を招いて研究を進めていく。
- ・保護者と連携して、家庭学習の習慣化を図ること。
- ・積極的な生徒指導は根気強く続け、さらに落ち着いた学習環境を作り、生徒の活躍の場面を作っていくこと。

2. 学校関係者評価委員会

本校サポート委員（22名）を中心とする。

3. 学校関係者評価

- ・学校自己評価の結果を見ていただき、ご意見等を伺い、よく頑張っていると評価していただいた。
- ・生徒の様子としては、学校全体が落ち着いて生活している。
- ・今後も学校と家庭との連絡を密にしていってほしい。
- ・挨拶・言葉遣いなどを今年度のものをさらに徹底してほしい。

4. 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 学力向上への取組

- ・生徒の豊かな学びと、ともに学ぶ生徒を目指した協同的な学習の研究実践する。
- ・家庭学習の充実と基礎学力の定着を目指していく。
- ・授業研究に外部講師、教員に先進校視察を積極的に進めていく。

2 落ち着いた学習環境作りと笑顔があり元気な学校づくり。

- ・全教職員の共通理解のもと、生徒指導と環境美化を図ること。
- ・個別支援が必要な生徒への組織的な対応を図ること。
- ・育成外部団体とのより密接かつ実動的な連携を継続し、個々のケースに対応する。
- ・校外生活のマナーや交通マナー向上を年間通じて、啓発・指導を徹底する。PTA活動と連携を行う。

3 教育効果向上のために、校内組織体制を見直し、具体的な措置を講じる。

- ・校内組織や校務分掌を目標達成のためシフトし、指示系統の明確化を図ること。